

2026年度事業計画書

学校法人新潟青陵学園

目 次

I. 2026年度事業計画の概要.....	1
II. 建学の精神、ミッション・ビジョン、長期目標、長期戦略.....	1 ～ 2
III. 設置する学校・学部・学科等.....	3
IV. 学園及び設置学校の事業計画.....	4 ～ 16
i. 学園	
ii. 新潟青陵大学	
iii. 新潟青陵大学短期大学部	
iv. 新潟青陵高等学校	
v. 新潟青陵大学こども園	
V. 組織図.....	17

I. 2026年度事業計画の概要

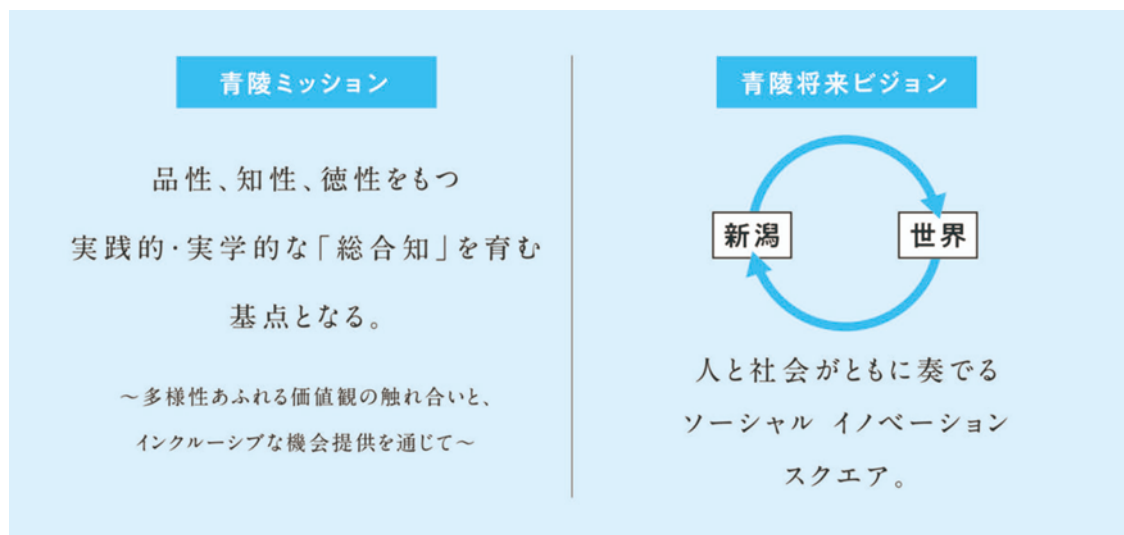
新潟青陵学園は、2023年5月に建学の精神を起点にした本学園の基本姿勢を示す「青陵ミッション」と学園の2040年のあるべき姿・目指す姿を描いた「青陵将来ビジョン」を策定した。また、この「青陵将来ビジョン」達成のために、2025年から2039年まで3期にわたる5か年ごとの中期目標・計画を策定することとした。第1期にあたる2025～2029年度の中期目標・計画をさらに具体化し、実行性を高めることを主眼に置いて、2026年度事業計画を、学園・大学・短期大学部・高等学校・こども園ごとに策定、それぞれの学校の計画を「研究」「教育」「地域貢献・社会連携」の三分野に集約し、可能な限りシンプルな形で統合した。

II. 建学の精神、ミッション・ビジョン、長期目標、長期戦略

■建学の精神

日進の学理を応用し、勉めて現今の社会に適応すべき実学を教授する。

■ミッション・ビジョン



学園で学ぶ学生、生徒、園児等を第一に考え、高い満足度をもって学園生活を送ることができるよう、教育・研究を充実させるとともに、社会連携を強化し、地域社会に貢献することで地学一体となる学園の社会的評価を高めていくことで将来ビジョンを実現し、もって持続的な学園経営を図ることを目的とし、以下の長期目標及び長期戦略を設定した。

■長期目標

経 営 (組織・人事・財務・事業ポートフォリオ)	「戦略に基づいた成長投資」「経営基盤安定化のための財務規律堅持」「内部留保金の積立」の実現 i. 経営のスピードアップを目的としたガバナンス改革、それを支える組織・人事改革 ii. 高校、短大にオンラインを活用した通信制課程を設置 iii. 「事業活動収支差額（減価償却費を含む）」を安定的に（＋）とする
研 究	日本におけるソーシャルイノベーション研究の拠点となる i. ソーシャルイノベーションに関する研究業績数を日本トップクラスに ii. 学園内及び学外（産官学）との連携拠点の構築 iii. 研究・教育・実践の相互関連性を高める組織体制を構築
教 育 (人材育成)	SEIRYOスタンダード教育の実現 i. こども園・高校・短大・大学がそれぞれの資源を生かしながらしームレスに繋がる教育プログラムを提供 ii. 企業・地方公共団体・大学等の外部団体や個人と連携して地学一体となった教育プログラムを提供 iii. オンラインを活用しエリアと年齢を超えた教育を提供（小中サポート・生涯学習・リスクリリング・等） iv. 園児・生徒・学生の全員が何らかの形で異文化交流を体験
実 践 (社会貢献)	ソーシャルサービス、社会連携の強化 I. 産官学と連携する青陵ソーシャルイノベーション推進機構（青陵SI）を機能させ、地学一体の教育を実現する ii. 地域課題解決に資するNPO法人設立・起業支援・連携プログラム策定
キャンパス 施設設備	ハイブリッド教育及びダイバーシティー&インクルーシブキャンパスの実現 i. 様々な年代がシームレスに学び合えるキャンパスへ ii. 生成AI・データ基盤・仮想空間技術等を活用した次世代型デジタルキャンパスの構築 iii. オンライン教育を前提とし、それを発展・補完する対面交流の場 iv. 多様な人々が集い異結合による新たな価値が創造される場

■長期戦略

- ・学校運営から戦略的学園経営へのシフト
- ・AIおよびデータ活用を横断基盤とした教育・研究・経営の高度化
- ・既存システムの統合とAIエージェント活用による業務効率化と質向上
- ・人とAIの協働を前提とした持続可能な組織モデルの構築（Agentic Institution）
- ・オンラインを活用し対象年齢及びエリアのセグメント拡大
- ・青陵独自の研究、社会貢献、教育プログラムの開発

Ⅲ. 学園及び設置学校の事業計画

(2026年4月1日現在)

設置する学校	開校年月	学部・学科等	収容定員
新潟青陵大学	2000年4月	大学院 看護学研究科（2014年4月） 臨床心理学研究科（2006年4月）	32
		看護学部 看護学科（2015年4月） 福祉心理子ども学部（2023年4月） 社会福祉学科（2015年4月） 臨床心理学科（2015年4月） 子ども発達学科（2023年4月）	950
新潟青陵大学短期大学部	1965年4月	人間総合学科（2004年4月） 幼児教育学科（1968年4月）	660
新潟青陵高等学校	1948年4月	全日制（普通科）（1960年4月）	1,008
		広域通信制（普通科）（2026年4月）	600
新潟青陵こども園	1967年4月	幼稚園型認定こども園（2020年4月）	100（利用定員）

VI. 学園及び設置学校の事業計画

i. 学園

■事業ポートフォリオ

1 2027年度在籍者&2026年度資金収支バランス目標
大学：在籍者数1,129人 資金収支バランス（+） 看97+103+100+100=400 福心子155+158+164+164=641 編入24+24=48 看研8+8=16 臨研12+12=24 短大：在籍者数600人 資金収支バランス（-）※1号館建設費借入金返済支出内数 人200+200=400 幼100+100=200 高校：通学制課程 在籍者数723人 資金収支バランス（+） 225+210+288=723 通信制課程 在籍者数150人 資金収支バランス（-） 50+100=150 こども園：在籍者数100人 資金収支バランス（+-0） ①学園全体で、人件費比率の適正化等により資金収支バランスを改善し、黒字体質を目指す。 ②社会情勢の変化や物価上昇等による運営コストの動向を踏まえ、安定的な教育研究活動の推進に向けて、大学・短期大学部における授業料水準の適正化について検討を行う。
2 地学一体教育の推進
①各校種において地学一体となった教育の具体を実践。 ②青陵SIと各校種および各校種間で連携した地学一体教育の検討。
3 大学と短期大学部の連携強化
①福祉心理子ども学部と人間総合学科の連携を軸とした将来構想を検討する。 ②子ども発達・幼児教育学科の連携を軸とした将来構想を推進する。
4 内部進学強化に繋がるカリキュラム・支援体制等の整備
①大学・短期大学部教員による高校生（留学生を含む）への授業等を強化 ②大学・短期大学部と高校のイベントや部活動・サークル活動での交流を強化 ③青陵高校生徒への青陵大学・短期大学部紹介イベント実施
5 通信教育（制）課程の各種体制の整備
①学園としてオンラインを活用した各種教育の可能性を検討 ②高校通信制課程において ・新潟県、東京都、神奈川県におけるサポート施設の設置 ・科目等履修制度を通じた認知拡大施策の展開（東京都・神奈川県）
6 青陵SIの新設及び体制整備
①業務分掌の整理 ②新規プロジェクトのマネジメント体制を確立
7 青陵アルumnaiの組織化
① 青陵アルumnaiの繋がりアップデート（基盤・ネットワーク） ・会員管理基盤の整備 ・校種横断的交流の推進 ・情報発信の高度化 ② 125周年の歴史を背景にしたブランド価値向上（支援・ブランド） ・母校への帰属意識とプライドの醸成 ・教育支援・社会貢献の仕組み化
8 国際交流推進及び留学生派遣・受入拡充に向けた環境整備
①学園（教育・研究）の国際化 ・学生生徒及び教職員における異文化理解・多文化共生への意識醸成に向けたプログラム実施 ・海外協定校との共同学位や単位互換等の構築に向けた検討

②学生交流・学術交流の活発化

- ・海外協定校との課題解決型の交流の実施
- ・オンライン等の活用による柔軟で参加容易な海外交流の実施

③留学生の募集と支援

- ・学生等の国際交流意欲向上に向けた海外派遣学生の帰国後の活用
- ・受入留学生の学習・生活環境の整備及び円滑な生活への支援

■職員人事制度改革

1 2025年度に策定した人材戦略に沿った等級制度の改定案の作成

～6月…職責等を踏まえた等級制度の設計

2 人材戦略に沿った研修体系の構築

～7月…階層別の研修計画の作成

3 人材戦略に沿った要員計画の作成

～9月…採用・配置・育成等要員計画の作成

4 人材戦略に沿った評価制度の改定案の作成

～12月…評価制度の設計

5 人材戦略に沿った報酬制度の改定案の作成

～2月…報酬額の決定方法など報酬制度の設計

■学園ファイナンス機能強化

1 管財資源の校種別比較の数値化及び中長期修繕計画策定

リプレイスが高額となるシステム等を把握し、リプレイス計画を策定する。

2 校種別収支（資金収支）見込み作成

大学・短期大学部・高校・こども園ごとに2027～2030年度の収支見込みを作成。

3 寄付募集目的・目標額・受付期間等の設定、規定整備

①企業を対象とした寄附募集を検討する。

②ふるさと納税の活用を検討する。

4 寄付募集のプラットフォーム作成

必要に応じて、2025年度に作成したプラットフォームのマイナーチェンジを行う。

5 資産運用目的・期待リターン・運用期間等の設定_規程整備

資産運用目的・期待リターン・運用期間の設定。

6 資産運用の基本ポートフォリオ策定

策定した資産運用ポートフォリオに基づいた金融商品の選択。

■持続可能な組織運営に向けた基盤強化

1 健康経営の推進

「健康経営宣言」団体として、衛生管理規程の整備、教職員健康診断、ストレスチェックの個人分析及び集団分析結果等を活用した職場環境改善活動等、教職員がいきいきと働ける環境整備等の労働衛生活動を自律的に進め、健康経営のさらなる推進を図る。

2 マネジメント体制の整備・業務の効率化

迅速な意思決定と的確なマネジメントを支える体制の構築のため、全学的意思決定システム及び各種マネジメント体制の整備を引き続き行う。

生成AIを活用した定型業務の効率化、合理化、アウトソーシング等を積極的に推進し、将来ビジョンに係る新規事業に取り組む。

3 内部統制システムの整備・運営

内部統制システム整備の基本方針（2025. 1. 23理事会決定）に基づき規程整備を引き続き行うとともに、方針・規程の周知と内部統制システムに基づく業務運営・検証を行う。

ii. 新潟青陵大学

■研 究

1 学内研究助成金制度の拡充
申請数の増加を促し、外部資金獲得力を高める。 ①学内研究助成申請数（目標数：20） ②外部資金獲得額（目標：前年度比120%）
2 researchmapの登録情報や研究業績書の定期的更新
FDポートフォリオを改定し更新状況の確認を行いやすくする。 ①FDポートフォリオを改定（2025年度完了） ②データ自動収集・集計システムの開発（目標：開発完了） ③データ自動収集・集計システムの実装（目標：実装完了） ④researchmap定期的更新（目標：年1回更新率100%）
3 地域課題解決につながる研究シーズ集の作成
研究支援室で計画されているシーズ集作成方針に基づいて研究シーズをまとめる。 ①研究支援室へのシーズ集原稿の提出（2025：完了）
4 教員FDポートフォリオ等を活用した評価
人事評価に反映させることができるような評価を検討する。 ①大学が求める教員像に合わせた評価項目と観点の整理（2025年度完了） ②評価の水準の標準化（2025年度ループリック評価表の完成、数量化案作成完了） ③データ自動収集・集計システムの実装（目標：実装完了） ④ループリック評価表と数量化の評価（目標：点検と改善案作成）
5 サバティカル制度の定着に向けた意識の醸成
サバティカル制度への応募を促すとともに、安心して応募できる体制を検討する。 ①業務改善と生産性向上への共通理解（目標：研修会開催） ②応募者の獲得（目標数：半期取得2名）
6 学会の年次大会開催に向けての支援体制の構築
SD・FD委員会と研究支援室が連携して支援体制を検討する。 ①学会の年次大会開催に関するアンケート実施（2025年度完了） ②学会の年次大会開催に関するアンケート結果に基づく支援体制案作成（目標：体制案の完成）
7 学内の科研費データベースの構築と機関リポジトリの拡充
SD・FD委員会と研究支援室が連携して学内の科研費データベース構築するとともに、機関リポジトリの拡充を図る。 ①研究支援室が開設した学内限定サイトへの情報提供 ②機関リポジトリへの情報提供

■教 育

1 県内若者への広報強化による入学者確保
高校訪問等によりニーズを把握し、本学のアピールを行い、入学者を確保する。 ①県内進学校からの受験者確保（目標：現状維持） ②科目等履修制度による学園内高校通信制生徒への授業提供 ③中学高校生向け公開講座の拡充 ④学生確保につながる出張授業の拡充 ⑤連携協定校拡充
2 高校生がより出願しやすい入試制度の検討
高校生がより出願しやすい入試制度を検討し受験者数を増やす。 ①一般選抜・共通テスト利用の併願システムの構築（2025年度完了）
3 社会人・留学生入学者獲得
ニーズ把握をするとともに、本学の受け入れ態勢を整え、出願しやすい入試を用意し、

社会人・留学生入学者を獲得する。 ①社会人・留学生学生獲得の成功事例の分析 ②全学部全学科での留学生受入れの検討（2025年度社会福祉学科のみ実施） ③留学生選抜の方法や実施時期の検討（2025年度実施時期を2回に） ④社会人が出願しやすい入試（編入学を含む）の検討 ⑤留学生・社会人のための入学前教育・初年次教育の構築 ⑥編入学生のための既修得単位等を活かす履修（指導）体制の確認・検討・改善	
4 AP（アドミッション・ポリシー）に基づく入学者選抜の検証と改善	
IRデータを活用して、APに基づく入学者選抜の適切性について、各学科・研究科で検証し、改善点を探る。	
5 IRデータによるDP（ディプロマ・ポリシー）の検証	
多面的な現状把握に資するIRデータの統合的な集計・分析・フィードバックによりDPを検証する。 ①GPS-Aの結果を利用したDP達成状況の評価とフィードバック ②学科・研究科ごとのアセスメントプランの確立 ③教育課程編成方針の見直し	
6 自己教育力/SEIRYOコンピテンシーの構成概念の整理とその養成課程の検討	
自己教育力/SEIRYOコンピテンシーに含まれるべき概念を整理し、どのように養成していくことができるか検討する。 ①学生モニター会議の主催による自己教育力/SEIRYOコンピテンシーの把握 ②学生参画FDにより養成のあり方の検討 ③配置科目（科目の新設、既存科目の活用、強化する教育方略含む）の検討	
7 多様な教育方法の導入と定着	
多様な教育方法を取り入れた授業を試行的に実施し、ノウハウを蓄積・共有することで、教育課程の編成を見直し、教育の質を担保しつつ、業務改善を図る。 ①教員と学生へのアンケートにより検証する。 ②生成AIを含む各種ツールの研修会を実施する。 ③授業におけるAIの利用と制限を本学のAI利活用ポリシーとガイドラインに沿って明確にするための手引を作成する。 ④グッドレクチャー賞・ベストティーチャー賞創設の検討	
8 学生支援部署（学務課・キャリアセンター・保健管理センター・障がい学生支援室）利用促進と教職員の学生理解の促進	
分散している学生支援部門の情報を整理し、相談・支援への「入口」をDX化し、相談窓口の可視化と利用促進を図る。 ①学内サイトでの情報集約と各部署の専門ページ作成・周知 ②24時間相談の開設と周知 ③学生支援力向上の研修会実施 ④特別な支援を要する学生の保証人への相談対応と合理的配慮実施 ⑤デジタルを活用した、個別の進路支援の実施（キャリアに関する情報提供体制の整備、オンラインでの書類添削や面談練習など） ⑥学生の家族を対象とした進路・学生支援相談会の実施	
9 学生主導の活動への支援と大学運営への学生の参画	
学生主導の活動への支援を行うとともに、学生の意見を取り入れた大学運営により、賑わいと活気のある大学にする。 ①学友会活動の支援による学生主導の活動推進 ②クラブ活動の支援による学生主導の活動推進 ③学生生活等に関するアンケート結果に基づく状況把握と改善計画 ④メッセージポストの活用に基づく状況把握と改善計画 ⑤学生インタビュー（意見聴取）に基づく状況把握と改善計画	
10 危機管理を含めた学生支援連携体制の再構成	

学生の多様な背景に合わせた支援のために、危機管理を含めた学生支援連携体制の再構成を行う。

- ①学生支援部門と関係者による連携会議の定期開催
- ②特別な支援を要する学生への連携した支援
- ③ハイリスク事例の早期の把握とカンファレンス開催により学内外の連携および意思統一（属人対応から組織対応へ）
- ④「希死念慮学生への対応マニュアル」および「フロー」を作成し、これまで統一されていなかった対応の全学的な標準化を推進
- ⑤各部署における危機管理マニュアル整備状況の確認と未整備部署への対応
- ⑥アドバイザー制度の見直し（問題点の整理と改善案検討）

■地域貢献・社会連携

1 地域への学習機会提供による「実学」の循環

青陵SI社会連携セクションが企画する地域への学習機会提供事業へ協力・参画することで、本学の「実学」教育・研究の成果を地域に還元し、地域とのつながりを強化する。

- ①公開講座への協力・参画
- ②特別受講生への社会人・高校生の受け入れ
- ③リカレント教育へ参画
- ④青陵サイエンスカフェへの協力・参画
- ⑤講師派遣要請への協力

2 地学一体となった地域との連携事業推進による「実学」の検証とソーシャルイノベーション志向の醸成

青陵SI社会連携セクションが企画する地域との連携事業に協力することで、本学の「実学」の検証をするとともに、新たな課題を見出し、地域社会と連携しながら議論や考察を深め、共に解決策を探る（ソーシャル・イノベーション志向）。

- ①青陵SI社会連携セクションが企画する地域との連携事業（ENGAWAプロジェクトなど）への協力
- ②行政機関、社会貢献企業、学会との共同プログラムの推進
- ③他団体との連携による学生の社会貢献活動の推進
- ④卒業生のボランティア活動支援

3 コミュニティサービスラーニング推進による「実学」の検証とソーシャルイノベーション志向の醸成

コミュニティサービスラーニングを推進することで、本学の「実学」の検証をするとともに、新たな課題を見出し、地域社会と連携しながら議論や考察を深め、共に解決策を探る（ソーシャルイノベーション志向）。

- ①青陵SIボランティアセクションの事業（学生ボランティアコーディネーター養成、災害支援に繋がる持続可能な防災学習プログラム、学園内の高校生のボランティア活動支援）への協力
- ②ボランティア関連科目の青陵SIボランティアセクションとの協働開催
- ③社会福祉学科での学びを核とした「コミュニティ・カフェ」の開設
- ④社会福祉学科での地域実践プロジェクト・メニュー開発を担える学生の育成

4 海外留学・海外研修の機会提供と危機管理体制の着実な運用

青陵SI国際交流・留学生セクションと連携して、海外留学・海外研修の支援の在り方を検討するとともに、留学や国際交流における危機管理体制を整備する。

- ①海外留学・海外研修の情報提供と支援体制の検討
- ②留学や国際交流における危機管理体制の着実な運用
- ③他機関との海外研修の協働実施の検討

5 留学生とギャップイヤーボランティアの受入れによる学内での国際交流の機会提供

青陵SI国際交流・留学生セクションと連携して、留学生受入の準備を進め、留学生を獲得するとともに、海外からギャップイヤー・ボランティアを受入れることで、キャンパス内でも体験を通じた異文化の理解と信頼関係の構築できる体制を目指す。

- ①留学生受け入れ促進
- ②ギャップイヤー・ボランティアの受入
- ③留学生交流会館開設の検討

6 国際交流事業開催の常態化と海外提携校の新規開拓

青陵SI国際交流・留学生セクションと連携して、国際交流行事の企画や紹介をし、学生・教職員の参加を奨励するとともに、海外協定行為との国際交流事業の活性化と新規協定校開拓する。

- ①学内外での国際交流行事の開催・紹介・参加奨励
- ②海外協定校との国際交流事業の活性化
- ③国際交流を目的とした海外協定校の新規開拓

■将来計画と経営

1 持続可能な大学経営のための将来計画の共有と合意形成

大学運営会議のもとに、臨時部会【通信制導入の基本構想・年次計画策定部会】と【専門領域としての介護人材養成の拠点化検討部会】を置き、検討を開始する。

- ①通信制導入の基本構想・年次計画策定
- ②社会人向け教育プログラム提供の検討
- ③専門領域としての介護人材養成の拠点化
- ④全学科の大学院併設と博士後期課程の設置検討
- ⑤学園と連携しての人件費比率の適正管理（人件費軽減目標値と年次計画の設定）

2 IRデータに基づくエビデンスベースの意思決定の強化と合意形成

必要な基盤について整理し、導入計画を立てる。

- ①IRデータの共有徹底と活用促進のための基盤整備
- ②IRデータの分析と活用研修

3 AI技術を活用した教育・研究・管理業務の効率化と合意形成

AI技術を活用する基盤と枠組みの整備を行い、SD・FDの一環として、管理業務の効率化のためのAI活用研修を企画する。

- ①AI利活用ポリシーとガイドラインの作成
- ②管理業務の効率化のためのAI技術研修

4 卒業生との連携の再構築

先行している短期大学部の体制を参考に、大学の卒業生名簿の管理体制の構築の計画を立てるとともに、卒業生のニーズを捉えた情報発信ができる基盤を作る。

- ①卒業生名簿の管理体制の構築
- ②卒業生のニーズを捉えた情報発信の基盤整備

iii. 新潟青陵大学短期大学部

■研究

1 学内での様々な分野にまたがる研究者による研究会の実施
①複数教員が共同研究する研究会を立ち上げ、年度末に研究成果の報告を行う。
2 単著・共著の公刊、シリーズ化の実現
①単著・共著の公刊を促進し、一冊以上の公刊を実現する。
3 学会活動の報告会の実施
①学会及び研究会で出張した教員による成果報告会を実施する。また、全教員が閲覧可能な報告書を作成する。研究推進費により出張した全教員を対象とする。
4 競争的外部資金への応募の増加
①科学研究費補助金をはじめとする外部資金への応募件数を昨年度より5%増を目指す。

■教育

1 地学一体の教育を実施する
①地学一体の教育の理念、学園で行っている実践を紹介し、学生の地域理解を深める科目を開設する。
2 2年次の演習成果を発表
人間総合学科：特別研究の成果発表、公開する。 幼児教育学科：保育実践演習ごとに研究発表を行う。
3 インストラクショナルデザインに基づいたオンデマンド教材作成のための研修会の実施
①インストラクショナルデザインに基づく動画作成のための研修会を実施し、作成した動画についてのピアレビューを実施する。原則として各教員が一つの動画を作成する。
4 新潟青陵高校と連携した教育の実施
①短大の授業を青陵高校生に履修可能とする。履修した科目は短大に進学した場合、短大の単位として認定する
5 ポータブルスキルの習得を目的とした授業の報告会の実施
①ポータブルスキルの修得を目的とした授業について、実施後担当教員による報告会を実施する。
6 多様性やインクルージョンに関するワークショップや学びの場を提供する
①学生が異なる視点や経験を理解し尊重することを学ぶために、多様性やインクルージョンに関するワークショップや学びの場を複数提供する。
7 リスキリングのための教育プログラムの開発
①リスキリングのための教育プログラムの立案のため、関係する教職員によるリサーチを実施する。

■地域貢献・社会連携

1 地域企業と連携した講座の実施
①地域企業と連携しリカレント講座を開設する。
2 連携事業の可視化・公表
①短大教員が関係した連携事業の一覧を作成し、概要を公表する。
3 授業・履修プログラムに繋がる企業や自治体との連携事業の拡大
①実施している現行の企業・自治体と連携した履修プログラムについて、FDを開き、拡張方法を作成する。
4 リスキリングのための履修プログラムの開発
①オンデマンド実施可能なリスキリングプログラム案を連携している企業と策定する。

iv. 新潟青陵高等学校

■研究

1 ホームルームの活性化（意図的・計画的な実施計画の策定）
①ホームルーム年間計画の策定と実施（学習指導要領におけるホームルーム活動の内容12項目を意図的・計画的に実施）
②人間関係づくり（ポータブルスキル、コミュニケーションスキル）の推進
2 特別活動（生徒会・専門委員会）の活性化（組織・活動の在り方）
①生徒会本部、専門委員会の活動の明確化
3 授業公開、相互交流、研究授業（ロールモデル、インストラクショナルデザインの授業設計）の実施
①授業公開（教員相互交流週間、保護者参観週間）の実施
②授業研修会（授業研究の提案、研究授業→ロールモデル）の実施
4 ICT（生成AI）を活用した授業づくり
①ICT活用のミニ研修の実施（生成A I の活用）
②chromebook（Brend）の効果的な活用
③Canvaの活用
④InspireHighの活用
5 教育支援班による研修（アセスメントなど）・授業の充実
①ASSESS「学校環境適応感尺度アセス」の導入（年2回実施）
②ASSESS活用についての職員研修の実施
③コミュニケーションスキル、SOSの出し方、こころの授業、性と生の授業、命をつなぐ献血など
6 探究型テーマ研修の在り方（総合的な探究の時間の充実）
①3年間を見通した「総合的な探究の時間」計画の作成
②地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進
7 大学・関係機関、外部機関との連携の在り方
①窓口の明確化
②連携協力機関の開拓
8 SDG s など教科横断の学びの実践
①横断的シラバスの作成とSDG s などの内容の関連付け
9 特色ある魅力的な学校行事の企画・実施
①青陵学園学園祭と高校青松祭（文化祭）の共同開催
②生徒が主体的に運営する体育祭
③人権教育
10 スポーツ科学に基づいた部活動の推進
①「スポーツ科学に基づいた部活動運営」の講演会の実施

■教 育

1 青陵大学・短期大学部との連携強化
①総合的な探究の時間、進路学習、キャリア教育、進路に向けた動機付けなど青陵大学・短期大学部、学園機関との連携強化
②相互の連携窓口の明確化・ミニオープンキャンパスの拡充
2 3コース教育課程の充実(新コース2年目)
①3コース（エンパワメントコース、キャリアデザインコース、キャリアアドバンスコース）の3年間を見通した教育課程編成の具体化
②学年主任とコース長を中心とした体制（チーム）づくり・コースの特色が明確化される来年度の具体的計画づくり
3 ホームルームの年間計画の充実（人間関係づくり、人権教育など）
①ホームルーム年間計画の策定と実施（学習指導要領におけるホームルーム活動の内容12項目を意図的・計画的に実施）
②人間関係づくり（ポータブルスキル、コミュニケーションスキル）の推進
4 問いと振り返りのある授業、ICT教育の推進
①ICT活用のミニ研修の実施（生成AIの活用）
②chromebook（Brend）の効果的な活用（学びのポートフォリオ化）
③Canvaの活用
④InspireHighの活用
5 特別活動の充実（生徒会、専門委員会、学級活動）
①生徒会本部、専門委員会の活動の明確化・生徒が主体となる（活躍する）場の拡大
②各学級での係活動の充実
6 UDL（青陵スタンダード）の実施、校内支援体制及びケース会議の充実
①青陵スタンダード（UDLチームが作成）の共同実践
②生徒指導部と教育支援班の密接な連携
③ケース会議、事例検討（養護教諭、スクールカウンセラー、臨床心理士、SSWなど専門職との連携）
7 探究型テーマ研修の実施（総合的な探究の時間の充実）
①3年間を見通した「総合的な探究の時間」計画の実施
②地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進
③InspireHighの活用
8 全日制課程定員の充足（専願入学者の増加）
①令和9年入学者（36×8＝288人）の定員充足（スポーツ専願50名）
②多様な広報活動
③中学校及び塾、フリースクールなどの訪問
9 全日制課程卒業生の多様な進路実現（国公立進学者の増加）
①一人一人の興味・関心、適性・特性に応じたきめ細やかな支援・サポート
②青陵大学・短期大学部の教育課程内容（シラバス）の理解・周知
③四年制大学50%、短期大学30%、就職その他20%
10 部活動の充実（重点化と専願入学者の増加、成果向上、参加率50%）
①部活動の重点化（選択と集中）を基にした部活動の充実
②インターハイなどの全国大会への進出
③部活動の広報・勧誘による参加率の向上

■地域連携・社会貢献

1 地域課題の解決（地学一体を目指して）学園の各センターとの連携
①青陵SIなど、学園機関との連携強化 ②総合的な探究の時間と新コース2年目授業の活用 ③国際交流の推進及び留学生支援
2 ボランティア活動の推進（生徒会、青陵SIボランティアセクションとの連携）
①生徒会、専門委員会、有志によるボランティア活動 ②青陵SIボランティアセクションと連携したボランティア活動等 ③松林、海岸、マリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部などの有効活用
3 青陵大学・短期大学部との連携強化
①総合的な探究の時間、進路学習、キャリア教育、進路に向けた動機付けなど青陵大学・短期大学部、学園機関との連携強化 ②相互の連携窓口の明確化・ミニオープンキャンパスの拡充
4 3年間を見通した総合的な探究の時間の実施
①3年間を見通した「総合的な探究の時間」計画の実施・地域探究～体験活動（社会実学体験）の推進 ②InspireHighの活用
5 ホームルームや特別活動を活用した人間関係づくり
①ホームルーム年間計画の策定と実施（学習指導要領におけるホームルーム活動の内容12項目を意図的・計画的に実施） ②人間関係づくり（ポータブルスキル、コミュニケーションスキル）の推進
6 新潟医療福祉大学、東京農業大学など他大学・専門学校等との連携強化
①総合的な探究の時間、進路学習、進路に向けた動機付けなど地元大学・専門学校との連携強化 ②相互の連携窓口の明確化
7 マリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部など外部機関との連携強化
①総合的な探究の時間、進路に向けた動機付けなど近隣のマリンピア日本海、日本赤十字社新潟支部など外部機関との連携強化 ②相互の連携窓口の明確化
8 新潟市内の各種施設、地域資源の活用（スポーツセミナー、EP概論）
①バーチャル市役所の発展～フードメッセinにいがた、にいがた6次化フェア、食文化創造都市推進プロジェクトなどの探究 ②食育・花育センター、どうぶつふれあいセンター、スケートパーク、アイスアリーナなど各種施設の活用 ③護国神社、白山神社、みなとびあ（新潟市歴史博物館）、西海岸公園などの地域資源の活用
9 学習成果の公表
①総合的な探究の時間などの学習成果を保護者・関係者などに向けて公開 ②マスコミや地域にも情報提供
10 地域創生デザインの作成（青陵プラン）
①総合的な探究の時間「バーチャル市役所」の探究を、実効性のある「地域創生デザイン（青陵プラン）」作成へと発展

■2026年度重点事業(広域通信制課程の設置)

1 広報活動の多面的展開と生徒数の確保
①広報活動の多面的展開（合同説明会・相談会、学校案内、学校サイト、WEB広告及びSNS、情報サイト、各中学校、高等学校などへの直接訪問など）
②入学案内の配布
③入学願書の配布、面談、受験など
2 個に応じたきめ細やかな支援・サポート体制の確立
①青陵スタンダード（UDLチームが作成）の共通理解
②養護教諭、スクールカウンセラー、臨床心理士、SSWなど専門職との連携の明確化、青陵大学臨床心理センターとの連携、T-pec（24時間相談機関）の活用
③学習等支援施設（サポート施設）の設置、学生メンター（アルバイト）活用方法の明確化
3 ポータブルスキルの育成
①学校設定科目「ポータブルスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を発展・効果的に運用できる教材の開発
②社会課題解決力の基盤となるポータブルスキル、特にコミュニケーションスキル等を育成
③実践的・実学的な力量を段階的に高め、自立した社会人の基礎を培う
4 インストラクショナルデザインに基づいた授業及びオンデマンド教材の充実
①生徒一人一人が自主的に学習できるようインストラクショナルデザインに基づいた授業
②社会課題解決力の基盤となるポータブルスキル、特にコミュニケーションスキル等を育成
③実践的・実学的な力量を段階的に高め、自立した社会人の基礎を培う
5 ハイブリッド教育（双方向型のコミュニケーション）の推進
①LMS機能の構築（オンラインでの双方向型コミュニケーション）
②添削指導（レポート）におけるオンデマンド型教材の作成
③面接指導（スクーリング）におけるインストラクショナルデザインの授業設計、ポータブルスキルの活用、オンラインでの代替授業の作成
6 探究学習（地域資源と地域人材の活用）推進
①地域資源、地域人材の開拓と教材化
②学びのポートフォリオ化の設計
③InspireHighの活用
7 青陵大学・短期大学部及び連携大学との連携強化
①「大学連携講座」の具体化
②面接等実施施設（関東学院大学、実践女子中高）での面接指導の具体化と担当教員の明確化
③学習等支援（サポート）施設（新潟青陵大学内、関東地区）の設置の具体化
8 就労体験・インターンシップの実施
①特別活動における就労体験・インターンシップの可能性の調査・研究
②中小企業同好会や地元企業・商店などとの連携の可能性の調査・研究
9 対面でのサポート（メンターの活用）の実施
①学習等支援（サポート）施設（新潟青陵大学内、関東地区）の設置の具体化
②メンターの活用（大学生、教員、社会人など）の具体化
10 探究力、ポータブルスキルを段階的にアップデートする教育環境の設定
①学びのポートフォリオ化の設計
②InspireHighの活用
③ポータブルスキル、特にファシリテーションスキル等を高める活動の具体化

v. 新潟青陵こども園

■研 究

1 「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育の構築
①講師を招いて、研究保育を行い、「主体性・対話的で深い学び」実現に向けた知見を蓄積する。
②校内の研究保育で得た知見を日々の保育に還元し、保育のさらなる充実を図る。
2 全国大会での研究保育の公開と協議会の開催
①全国学校体育研究会新潟大会で、県内外からの参会者に、積み上げてきた保育の一端を公開する。
②協議会での意見を、それ以降の豊かな保育の実現につなげる。
3 近隣の小学校との年2回の幼小連携研修会の開催
①近隣の小学校と研修会を開き、幼小の連携計画を立て、実践していく。
②連携計画の進捗状況に基いて、小学校との接続を見据えて、保育の質的向上につなげる。

■教 育

1 長期・短期指導計画の作成による遊びの最適化
①年齢に合わせた遊びを記入し、年間指導計画を改善していく。
②月案に前月の遊びの様子を基にして、当月の遊びの方向を決めて記入する。それにより、短期的な見通しをもって、最適な遊びを選択していく。
2 園児の意見を取り入れた主体的な園行事の実践
①園児からの希望や意見を取り入れて、園児とともに創る行事にしていく。
3 次の遊びに向けて振り返ったり折り合いを付けたりする「サークルタイム」の取入れ
①学級の問題解決や遊びの振り返りの時に、「サークルタイム」を開く。
4 「個に応じた支援」に関する研修の実施
①特別支援教育の専門家を招聘して、特性に応じた支援の在り方を学んでいく。
②園児の実態と自分たちの支援に関する情報を交換する機会を定期的に開催する。
5 「個別の指導計画」作成による指導の個別化
①「個別の指導計画」について、診断の出ていない園児についても作成し、職員で共有しながら、個別化した保育を組織的に行う。
6 0～1歳児受入れに向けた環境整備
①トイレと調乳室の補助金申請を行う。
7 2歳児受け入れのための2歳児の保育についての共通理解と保育計画の見直し
①連携先の小規模保育事業所及び保育主幹から、2歳児保育の在り方を学ぶ。
②そこで得た情報を全職員で共通理解し、新たに始まる2歳児保育を充実させていく。
③連携先の小規模保育事業所等から集めた指導計画の資料を基に、保育計画を作成し、ブラッシュアップしていく。

■地域貢献・社会連携

1 障がい児通所支援事業への参入に向けた準備
①新潟市の「障がい児通所支援事業者指定申請の手引き」（令和7年版）を入手して、詳細を把握する。
②先進事例を収集し、障がい児通所支援事業実現に向けての課題と課題解決の道筋を明らかにする。

V. 組織図

